

- 平成14年度保健学科 FD 研修会講演 -

看護学領域における質的研究方法について

勝野とわ子

キーワード (Key words) : 1. 看護学 2. 質的研究 3. 研究方法

はじめに

看護学において看護の対象者の内的経験を正確により深く理解することは、対象者のニーズに合った質の良い看護を提供するために不可欠なことである。質的研究方法は、人間や環境といった看護の主要な概念や看護現象を理解するうえで、有用な研究方法であるといえる。本稿では、看護学領域における質的研究方法の種類と概観および科学としての質的研究を成立させる基本的要件について述べる。

質的研究方法の種類と概観

はじめに、質的研究方法は多様であるということ強調したい。現在の日本の看護学領域の研究では、質的研究法というとグランデッドセオリーが主流である。しかし、アメリカでは「質的研究法は研究者ごとに異なってもおかしくないもの」、とさえいわれていた。質的研究では、研究の過程、特にデータ分析の個々の段階で研究者が創意工夫することが要求される。したがって、その方法が多様なことは自然なことかと考えられる。その際重要なことは、基礎能力として量的な研究方法を理解していることと看護学における主な質的研究方法の手法について学ぶことである。ここでは、主な質的研究方法として現象学、エスノグラフィー、グランデッドセオリーの概略を述べよう。

1. 現象学 (Phenomenology)

現象学は、19世紀後半、ドイツの哲学者フッサール (Husserl) により提唱された。フッサールは身体的な現象を研究する手法 (自然科学的研究方法) は、人間の思考や行動を研究するには不適切であると考えた。現象学は、人間の生きた経験 (lived human experience) の本質を記述し研究することを目的とする。現象学研究者はデータを収集する前に、その現象に対する自分の観念・考えをなくし、白紙の状態現象を把握する努力を

必要とする。人間経験に対する洞察を得るデータソースとしては、インタビュー、日記、記録物、そして詩や芸術が挙げられる。現象学研究の成果は、現象の本質や意味の詳細な記述であるといえる。

2. エスノグラフィー (Ethnography)

エスノグラフィーは、19世紀後半に人類学領域で他文化を理解するために開発された方法である。この研究方法は、ある特定の集団の文化について理解を深めることを目的とする。研究者は外国の文化のみならず、ある特定のグループの文化、例えば、病院や施設といった組織や異なる民族グループの文化を理解するためにこの方法を用いることが出来る。データ収集法としては、参加観察法、インタビュー、フィールドノートが用いられる。また、他のデータソースとしては、ビデオ、記録、日記、詩、芸術、重要な文化的工芸品が挙げられる。エスノグラフィー研究の成果は現象の文化的本質の詳細な記述であるといえる。

3. グランデッドセオリー (Grounded theory)

グランデッドセオリーは、1967年に社会学者のGlaser & Straussによって開発された。彼らは、理論はデータに基づいて帰納的に構築されなければならない、そうすることによってのみ理論が現実に結びつくことが出来ると考えた。したがって、この方法は、データに基づいて理論を開発することを目的とする研究で用いられる。データ収集法としては、観察、インタビュー、記録、書物、新聞記事、日記などが挙げられる。

質的研究方法の要点

質的研究の研究計画を立てる上で重要な点は次のようである。

1. Research design depends on research question.

研究デザインは研究疑問によって決まるということである。研究者は、自分が行う研究が量的研究か質的研究

かを考える前に自分が何を明らかにしたいのか、つまり研究疑問を明らかにすることが必要である。言うまでも無いが、原因結果の因果関係を明らかにしたいときは、実験研究デザインを用いなければならない。

質的な研究疑問を考える基礎として、質的研究の主な目的を整理してみると以下の4点にまとめられる。

- 1) ほとんど知られていない現象を記述する
- 2) 現象の意味を理解する
- 3) 結果というより過程を記述する
- 4) 現象を概念化する

記述を目的とする研究は、ある現象（研究している現象）に対して、内的な、深く詳細な視点を提供する、ものといえる。質的な研究疑問とは、1) 日常生活の中で人間の経験を探求したり、2) 自然の状況下で自然に起こる現象を理解するために用いられる。

2. 研究参加者

質的研究において研究の参加者を得る方法として最もよく使われるのは、目的的標本抽出法である。これは、研究者が、研究トピックについて一番良く知っているのは誰か、また、研究トピックについて一番良い情報を得られる状況・場はどこかということを考えて、研究参加者を目的的に選んでいくという方法である。

3. 質的研究法におけるデータ収集法

1) 参加観察法

参加観察法とは、ある組織、グループの文化について内部者の知見を得ることを目的として研究者がある一定期間そのなかに身を置いてデータを集める方法である。他の方法では集められない内部者の知見を得ることが出来るがデータの客観性に注意が必要である。

2) 面接法

面接法には、非構成的インタビューと半構成的インタビューを用いる方法がある。非構成的インタビューは、ほとんど現象を知らないときに用いられ、「～についてお話しください。」という質問をすることが多い。一方、半構成的インタビューは、一定の順序で複数のopen-ended questionをもちいてインタビューする方法である。

3) フィールドノート

フィールドノートの目的は、1) 研究参加者の生きた経験を知ること、2) 彼らが生活している社会を記述することにある。ある状況下で起こっていることを出来るだけ正確に記述することが大切である。また、観察している事象に対する考察、感情、悩み、さらに研究者がその場にいることによる影響なども記録する必要がある。

4. 質的データ分析法：内容分析

質的なデータを分析する方法として内容分析

(content analysis) は非常に有用な方法である。内容分析は、データの中に基本的なパターンを見つけ、コード化し、カテゴリーに分類していく過程であると定義される¹⁾。ある状況下でのデータのもつ意味を探求していくことが出来るのである。

5. 研究の標本数の指標：飽和

質的研究において、研究のサンプルサイズについてよく質問をうけるが、これは個々の研究によるというのが最善の答えである。しかし、質的研究におけるデータ収集自体は、データが飽和したときに終了するといえる。飽和達成の指標として挙げられるのは次のとおりである。

- 1) 新しい内容のデータが得られないとき
- 2) カテゴリー間の関係がよくわかり検証されたとき
- 3) 理論が完成したとき

飽和を達成するためのサンプルサイズを考えるうえで必要な要因としてつぎの5点が挙げられる。

- 1) データの質：読みやすい逐語訳であるか否か、録音
が明瞭であるか否かなどが含まれる。
- 2) 研究の範囲：研究の範囲が広いとおのずからサンプルサイズは大きくなることに留意する。
- 3) 研究主題の性質：
研究テーマが明確であることや情報が容易に得られるか否かということが含まれる。
- 4) 個々の参加者から得られる有効な情報の量：
参加者の言語的表現能力、明らかにしたい現象に対しての経験の多さや深さ、研究に協力できる時間などが含まれる。
- 5) 個々の参加者のインタビューの回数

科学的正確さ(Scientific rigor) ということ

研究において研究者の結論が真実で信頼できると判断するためには、科学的正確さが確立されなければならない。質的研究においては量的研究とは異なる科学的正確さの基準があることを理解することが大切である。Lincoln とGuba²⁾によると質的研究における科学的正確さを確立するためには 1. Credibility, 2. Auditability, 3. Transferabilityという3つの基準を満たすことが必要であるといわれている。

Credibilityとは、研究結果が研究参加者および研究

究領域の他者から真実であると判断されることである。これを達成するためには、メンバーチェックング (member checking) という方策が採られる。これは、データ分析の結果を研究参加者に提示して、内容がその方の意図したことと同じであるか否か、という確認をとるプロセスである。研究結果の真実性を高める他の方策としては、prolonged engagement (長期間にわたる現象の観察)、persistent observation (持続的な観察)、そしてtriangulation がある。

Auditabilityとは、研究者による研究過程の説明義務のことです。これは、研究疑問およびもとなるデータから、様々な分析の段階をへて結果の解釈にいたる研究の過程の情報が読者に適切に提供されることにより判断されるものである。研究者は、「読者は、自分の思考過程を理解できるか」また「自分は研究過程を詳細に記述しているか」と常に自らに問うことが必要である。

Transferabilityとは、研究結果がその研究の参加者以外の人や場所にどの程度あてはまるか、ということを問うものである。量的研究の外部妥当性 (external validity) に相当するものといえよう。研究者は、研究の読み手が判断できるように、参加者の背景情報、そして研究が行

われた場などについて十分なデータを提供することが必要である。

最後に「研究者は測定具である」(You are an instrument.) ということを強調したい。このメッセージの本質は、質的研究において研究者自身が研究の質を大きく左右するということである。優れた質的研究をするためには、すぐれた質的研究者についてトレーニングを受けることが不可欠である。質的研究についての知識はもとより、研究の各段階における知的訓練をうけることによって獲得される熟練さが要求される。質的研究は、抽象能力にすぐれ、言語に対する繊細さを備えた研究者により適している研究方法といえる。

参考文献

- 1 . Mayan, M. J.: An introduction to qualitative methods: A training module for students and professionals. International Institute for qualitative Methodology, Edmonton, 2001
- 2 . Lincoln, Y.S., & Guba, E.G.: Naturalistic inquiry. Sage, Newbury Park, 1985